

event 1

令和元年度 横浜の遺跡展

横濱人とおとし穴―緑区霧ヶ丘遺跡の発掘

主導的に発掘調査を行い、資料を保管してきた武蔵野美術大学より横浜市への資料移管を記念し「おとし穴」の先駆け的研究を担ってきた霧ヶ丘遺跡の展示を行います。

会期:8月11日(木)～9月29日(日) 9:00～21:00
会場:長津田地区センター

※日・祝日は17:00まで
〔休館日〕8月13日(火)・9月9日(月)

観覧料:無料

主催:〔公財〕横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター
共催:長津田地区センター 指定管理者(株)清光社

◇「横浜の遺跡展」関連講演会
「縄文人とおとし穴―緑区霧ヶ丘遺跡の発掘―」
◇日時:9月14日(土)13時30分～14時30分
◇会場:長津田地区センター 中会議室
◇講演者:平山尚言(〔公財〕横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター)
◇費用:500円(資料代)
◇申込方法:往復はがきに「横浜の遺跡展関連講演会」・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を記入の上、埋蔵文化財センターへお送りください。
◇申込締切:8月28日(水)必着

横濱の遺跡展

横濱市ふるさと歴史財団

埋蔵文化財センター

〒247-0024 横浜市栄区野七里 2-3-1
TEL. 045-890-1155 /FAX. 045-891-1551
https://www.rekihaku.city.yokohama.jp/maibun/

event 2

令和元年度 横浜の遺跡展

横濱市新市庁舎完成記念 企画展「近代横浜を掘る(仮)」

会期:2020(令和2)年1月18日(土)～4月12日(日)
会場:横浜都市発展記念館 (横浜市中区日本大通12)

Message

埋蔵文化財センターは、通常、平日のみ開館していますが、埋蔵文化財センターのグラウンドで開催された上郷ネオポリス夏祭りに合わせて、展示室の夜間開館と出店をしました。土器パズルでは初級編から超上級編まで多くの方々に参加いただきました。展示室や展示室に向かうまでの間には、周年事業に合わせた展示や実際の土器に触ってもらふコーナーを作りました。地域の多くの方々にお越しいただき、とても盛況でした。

本物の土器を手に取ってもらいました

土器パズルに挑戦中

編集後記

今回は埋蔵文化財センター特別記念号ということで、これまでとテイストを変え、埋蔵文化財センターの紹介をしています。埋蔵文化財センターは博物館に比べ、その知名度は低く、どんな施設なのか不思議に思っていた方も多く、思われま。施設の大半は市内出土の遺物の保管・管理に利用されています。その一部は展示室にて公開していますので、是非皆さんいらしてください。

編集 N

埋文よこはま 40

発行日 2019年8月20日

編集・発行 (公財)横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター

印刷 株式会社ナデック

埋文よこはま 40

特別記念号

埋蔵文化財センター(略:埋文センター)ってどんなところ?

01 調査事業

発掘調査現場 01

発掘により失われてしまう遺跡の発掘調査を行っています。様々な作業を経て、遺跡の記録を本に残しています。

02 普及啓発事業

報告書刊行 05

発掘調査報告書が出来るまで

写真撮影 04

遺物実測 03

遺物接合復元 02

企画展示「横浜の遺跡展」04

体験学習「拓本」02

展示室見学 01

体験学習「体験発掘」02

講座「横浜の考古学」03

歴史散策 05

埋蔵文化財センター(略:埋文センター)ってどんなところ?

01 調査事業

発掘調査現場 01

発掘により失われてしまう遺跡の発掘調査を行っています。様々な作業を経て、遺跡の記録を本に残しています。

02 普及啓発事業

報告書刊行 05

発掘調査報告書が出来るまで

写真撮影 04

遺物実測 03

遺物接合復元 02

企画展示「横浜の遺跡展」04

体験学習「拓本」02

展示室見学 01

体験学習「体験発掘」02

講座「横浜の考古学」03

歴史散策 05

埋蔵文化財センターでは大きく分けて2つの仕事をしています。1つは発掘調査やそこから出土した遺物を整理・報告する調査事業です。もう一つは調査事業の成果を展示や講座を通して広く知ってもらふ普及啓発事業です。発掘作業等の考古学的手法により、私たち人類が過去に残してきた遺産を調査・研究し、活用する施設が埋蔵文化センターです。

横浜市埋蔵文化財センター設立以降に調査した遺跡

年度	所在地	形態	遺跡名	時期	年度	所在地	形態	遺跡名	時期
1990	都筑区中川町	本	中耕池遺跡	縄・中	2000	鶴見区上末吉	本	上台北遺跡	縄・弥
	緑区鴨居町	本	鴨居原遺跡	縄・墳		金沢区金沢町	試	史跡称名寺境内	中
	旭区上白根町	本	都筑自然公園予定地内遺跡群	縄		港北区箕輪町	本	箕輪河谷横穴墓群	墳
	緑区さつきが丘	本	稲ヶ原遺跡A地点	縄・弥・墳・古		保土ヶ谷区川島町	本	南原遺跡	縄
	港北区新吉田	本	量屋の上遺跡	旧・縄		港北区箕輪町	本	箕輪河谷横穴墓群	墳
	神奈川区松見町	本	大口台遺跡	縄・弥・墳		都筑区川和町	試	川和中村人遺跡	中・近
	都筑区茅ヶ崎町	本	茅ヶ崎城	古・中		金沢区金沢町	本	史跡称名寺境内	中・近
	[早瀬川北岸・南岸]	現	港北ニュータウン地域日本住宅公社 団施工区域および隣接地			磯子区杉田	本・試	杉田東漸寺貝塚	弥・中・近
	緑区東方町	本	源東院貝塚	縄		戸塚区上倉田町	本・試	西見谷遺跡	弥・古・中・近
	港北区師岡町	測	(仮称)師岡権現塚	中		2002	港北区太尾町	本	牢尻台遺跡
1991	磯子区岡村	本	三殿台南東斜面遺跡	縄・弥・近現	都筑区地辺町	本	中星谷遺跡	縄・弥・近	
	港北区新吉田	本	量屋の上遺跡	旧・縄・近	磯子区杉田	本	杉田東漸寺貝塚	墳・中・近	
	港北区新吉田	本	西谷戸の上遺跡	縄・古	西区高島町	本	第2代横浜駅舎跡地	代	
	港南区荻下	試	雑色杉本遺跡	縄・近	都筑区茅ヶ崎東	本	茅ヶ崎城址	弥・古・中	
	都筑区大熊町	本	上の山遺跡	古・中・近・現	都筑区勝田町	試	重要文化財関家住宅	近	
	港北区新吉田町	本	西谷戸の上遺跡	縄・古・中・近	泉区和泉町	本	泉警察遺跡	縄	
	栄区荻間町	本	荻間中央公園	弥・古・中	戸塚区上倉田町	本	西見谷西遺跡	縄・弥	
	都筑区茅ヶ崎町	本	細崎山横穴墓群	墳・古	保土ヶ谷区明神台	本	明神台遺跡	縄・弥・墳・古・中	
	青葉区市ヶ尾	試	市ヶ尾横穴古墳群(B群)前庭部	墳	2004	泉区西が丘	本	むじな塚	縄・弥・現
	旭区上川井町	本	坂下谷遺跡A・B地点	縄	鶴見区岸谷	本	風早台貝塚	墳・古・中	
1992	旭区上川井町	本	坂下谷遺跡A・B地点	縄	磯子区杉田	本	杉田東漸寺貝塚	墳・古・中	
	港北区新吉田	本	北川貝塚南遺跡	旧・縄・弥・墳・古・中・近	都筑区茅ヶ崎東	本	茅ヶ崎城址	墳・中	
	港北区新吉田町	本	量屋の上遺跡第2次	縄・近	中区山手町	本	元町貝塚	縄・代	
	都筑区茅ヶ崎町	本	茅ヶ崎城址	中	2007	神奈川区羽沢町	本	羽沢具行・羽沢丸丸遺跡	縄
	鶴見区馬場	本	寺尾城址	中	鶴見区鶴見中央	試	鶴見区No.85遺跡	弥	
	都筑区茅ヶ崎町	本	ジンザブ横穴墓群	墳	中区本牧緑ヶ丘	本	中区No.12遺跡(平台貝塚)	縄	
	都筑区茅ヶ崎東	本	茅ヶ崎城址	弥・古・中	2008	神奈川区神奈川	試	神奈川台場	近・代
	金沢区大道	本	六浦大道やぐら群	中	中区本牧三之谷	試	名勝三溪園	近現	
	泉区下飯田	試	下飯田林遺跡	弥・墳	2009	中区本牧三之谷	試	名勝三溪園	近現
	旭区市沢	本	市ヶ沢田地遺跡	縄	金沢区瀬戸	立合	市立金沢高校内貝塚	弥・墳	
1995	都筑区茅ヶ崎東	本	茅ヶ崎城址	中・近・代・現	金沢区瀬戸	本	瀬戸神社旧境内地内遺跡	中・近	
	港南区荻下	本	雑色杉本遺跡	縄	2010	中区本牧三之谷	試	名勝三溪園	近現
	金沢区大道	本	六浦大道やぐら群	中・現	金沢区金谷東	本	金沢区No.9遺跡(北谷公園内やぐら)	中	
	泉区和泉町	本	中ノ宮遺跡	中・近	神奈川区星野町	本	神奈川台場	近近代	
	泉区下飯田	本	下飯田林遺跡	弥	金沢区瀬戸	本	瀬戸神社旧境内地内遺跡	近・代	
	泉区和泉町	試	草木遺跡	古・中	2011	中区本牧三之谷	試	名勝三溪園	近現
	港北区高田町	試	寺谷戸遺跡	弥・墳	金沢区金沢町	試	史跡称名寺	縄	
	泉区和泉町	本	草木遺跡	古・中	2012	中区本牧三之谷	試	名勝三溪園	近現
	泉区和泉町	試	泉警察遺跡	縄・中	2013	港北区日吉台	測	日吉台防空壕	現
	旭区上白根町	試	都筑自然公園No.23地点遺跡	縄	2013	中区花咲町	本	本町小学校内遺跡	代
1996	旭区市沢町	本	市ヶ沢田地遺跡	縄	2013	栄区鍛冶ヶ谷	試	宮ノ前横穴墓群	墳
	泉区和泉町	本	中ノ宮北遺跡	中	神奈川区神奈川	試	神奈川台場	近近代	
	泉区和泉町	本	泉警察遺跡	縄・近	金沢区瀬戸	本	上行寺裏遺跡	中	
	青葉区市ヶ尾町	本	市ヶ尾第二地区(大場第二地区)21街区・横穴墓群	墳	2014	中区本町	試	洲千島遺跡	代
	保土ヶ谷区今井町	試	多子谷遺跡	近	中区本町	試	洲千島遺跡	代	
	金沢区六浦	本	金沢区No.52(上行寺裏)遺跡	古・中・近現	鶴見区馬場	本	寺尾城址	中	
	都筑区茅ヶ崎東	本	茅ヶ崎城址	中	2015	金沢区六浦	本	金沢区No.52遺跡	中
	港北区太尾町	本	牢尻台遺跡	弥・墳	神奈川区神奈川	試	神奈川台場	近近代	
	緑区長津田町	試	わきの谷遺跡	中・近～現	泉区和泉中央	本	泉中央公園遺跡	中	
	金沢区六浦	試	金沢区No.52(上行寺裏)遺跡	墳・古・近	2016	金沢区瀬戸	本	金沢八景西公園遺跡	近
	栄区荻間町	本	荻間中央公園遺跡	縄・古・中・近	2017	戸塚区舞岡	試	舞岡熊之堂遺跡	縄
	栄区荻間町	本	荻間中央公園遺跡	縄・弥・墳・古・中・近	2018	戸塚区舞岡・吉田町	本	舞岡熊之堂遺跡	縄・弥・墳・現
1999	緑区三保町	本・試	都筑自然公園予定地内遺跡群	縄・中					
2000	保土ヶ谷区川島町	本	南原遺跡	縄					

※本は本格調査、試は試験確認調査、現は現況調査、測は地形測量調査の略である。

旧：旧石器、縄文、縄文弥生、古墳、古：古代、中：中世、近：近世、中近：中近世、代：近代、近近代：近世近代、現：現代、近現代：近現代の略である。

これらの青枠内の番号はP6～11の遺跡名の後ろに記載の番号と対応しています。

表内に青字で書かれたものは、埋文センター編の報告書名です。

[illegible]

栄区移転後に発掘調査した遺跡・報告した遺跡

[illegible]

幕末・近代の調査

本町小学校内遺跡（中区花咲町） No31,39

J R桜木町駅の西側 200m ほどのところに横浜市立本町小学校があります。この敷地内ではこれまでに4回にわたって調査が実施されており、明治初頭に創業された瓦斯会社の遺構や遺物が見つかっています。創業当時の建物の遺構や国内で最も古いガス管が出土しました。また平成 25(2013)年に発掘調査された際には円柱形のガスホルダー（＝ガスタンク）の煉瓦積み基礎が調査区東側で見つかっています。この本町小学校内遺跡は平成8（1996）年に市地域文化財に登録され、その後、埋蔵文化財包蔵地（近代遺跡）として指定されました。

ガスホルダー・煉瓦基礎（右上）
国内最古の7インチガス管 都発広場で展示（右下）

神奈川台場（神奈川区神奈川） No5,9,33,34,45

幕末期に日本近海に現れた外国船を監視・迎撃する海岸砲台のことを「台場」と言い、日本各地には約1000か所とも言われる台場が築かれました。1859年に横浜が開港すると、翌年には横浜を守る主要な防御施設として「神奈川台場」が神奈川区の海岸部に造られました。

埋蔵文化財センターでは、平成20年以降、数度の発掘調査を行い、これによって神奈川台場の築造・工法などが少しずつ判ってきました。右の写真は台場の基礎部分の石積みです。四角錐をした「間知石」と呼ばれる特徴的な形の石で構成されています。こうした石や裏込めと呼ばれる石垣の背面構造によって、丈夫な石垣を築いていました。



神奈川台場東海面側の石垣



間知石と裏込め（飼石・栗石・小円礫）

洲千島遺跡（中区本町六丁目～北仲通六丁目地区） No42,51

大岡川の河口、桜木町駅の東 300m ほどの新市庁舎建設地の発掘調査では、江戸時代末から明治・大正期の土木遺構をはじめ、建物の基礎や、雨水升・下水道などの排水関連のインフラに伴う多くの遺構が発出されています。



洲千島遺跡の発掘作業風景
※埋文よこはま 20 号「神奈川区神奈川台場」、32 号「横浜の近代遺跡」、39 号「横浜の台場」に詳しい解説が載っています。

近世の調査

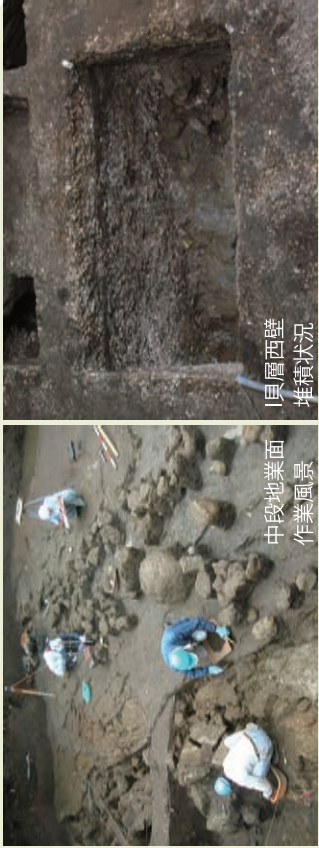
瀬戸神社旧境内地内遺跡（金沢区瀬戸） No4,6,14,16,26,36

京急線金沢八景駅東口の瀬戸神社旧境内地遺跡として周知されている遺跡において、地業面やそれに伴うピット、石垣・参道、貝層、石切遺構、井戸、杭列など、近世江戸期の遺構が多く検出されました。以前の調査で検出された古墳時代の祭祀遺構や貝層などは見つかりませんでした。中世まで遡る切石積み遺構は確認されています。

貝層の中にはカキが9割以上占めるものがあり、個人が食べた後にカキ殻を廃棄したのではなく、料亭での消費やぬかんだ道に殻を撒く地業など、養殖の可能性も含めた漁業や製造業（石灰製造）などとの関連が考えられています。

また鉄滓や礪の羽口など鍛冶関連の遺物も出土し、周辺で鍛冶を行っていたことが考えられます。銅線や銅板などの修繕や加工の部材とみられるものも見つかった。鍛冶あるいは金属加工・修繕職人の存在も考えられています。

さらに瀬戸神社の神主を代々務めてきた千葉氏居館の石垣や円通寺の参道とみられる三和土状の部分とその周辺の石積みが発出されています。



中段地業面
作業風景



石垣検出
状況

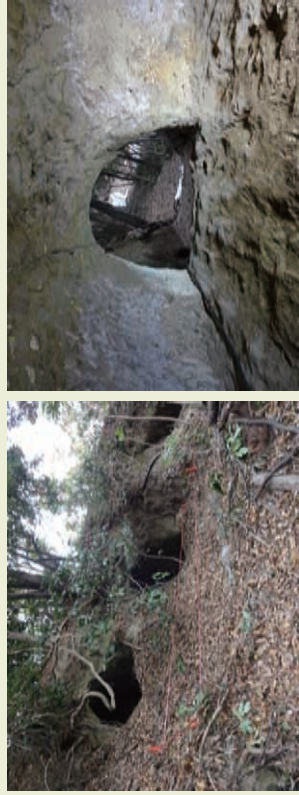


たなき
参道三和土
検出状況

古墳時代の調査

※埋文よこはま 31 号「狹川流域の横穴墓」に詳しい解説が載っています。

宮ノ前横穴墓群（栄区鍛冶ヶ谷） No32,40



箱室より外を臨む



D群1号墓内 棺室構造を持つ

A群9号墓内 造付棺座を持つ

JR京浜東北・根岸線本郷台駅の東側約1.2km、県道21号線に面した丘陵の南側斜面にA群11基、B群7基、C群4基、D群1基、E群2基の計25基からなる横穴墓群の3基の内部測量及び横穴墓前面のトレンチ調査を行いました。横穴墓とは崖面に直接墓室を穿つもので、こうした墓制は古墳時代後期～終末期に盛行しました。神奈川県内では横穴墓が多くみられ、その中でも栄区を含む旧鎌倉郡域では、遺体を葬る玄室の奥に「棺室」と呼ばれる小部屋のような特殊な構造を持つ横穴墓がみられます。左下の写真がそうです。また右下の写真のように造付の棺座を持つものも見られます。横穴墓前面のトレンチ調査では玄室底面から一段下がって平場が広がっていることも確認しました。これらの横穴墓の一部は、「鍛冶ヶ谷市民の森」内に公開されています。

ひとこめ



「横穴墓」では、火葬はほぼ行われず、遺体は棺に入れられるかそのまま安置されました。一方で、横穴墓によく似た「やぐら」では、火葬と非火葬の両方がみられます。どちらも一つの横穴墓ややぐらに一体だけでなく、数体の遺体がみられることが多いです。

中世の調査

寺尾城址（鶴見区馬場） No43,47

寺尾城址は、JR鶴見駅の西約2キロほどに位置する鶴見区馬場3丁目にあります。入江川によってつくられた標高35mほどの舌状台地にある中世の城跡です。1993年、2010年、そして2015年とこれまで3回の調査が行われ、空堀や土塁がみつかっています。殿山公園の一角にかかる空堀は上面の幅約5m、深さは3mを超え、堀底の幅は約1mの逆台形をしています。また殿山公園の南側からも舌状台地を東西に分断する形で深さ約1mの逆台形をした空堀とその東側にL字状に幅4～5m、高さ60cmほどの土塁があります。

寺尾城址にみられる空堀

泉中央公園遺跡（泉区和泉中央南） No50,56

中世と思われる空堀1条と土塁1基が検出されました。空堀は地表面から最大約2.7mの深さ、幅は4.6m、堀の勾配は約40°を測ります。また空堀の隣には高さ60cmほどの土塁もみつかっています。調査地点一帯は「泉小次郎伝承地」として横浜市地域文化財に登録されており、鎌倉前期の信濃国武士、泉小次郎親衛に関連する寺社も多くみられます。

泉中央公園遺跡にみられる空堀

上行寺裏遺跡（瀬戸 21 番やぐら群）（金沢区瀬戸） No37,46

京急金沢八景駅の西際に位置する6基からなるやぐら群の東端に位置する1号やぐらの調査を行いました。開口部幅4.3m、奥壁幅6.4m、高さ2.9mの大型のやぐらです。「やぐら」とは中世に鎌倉を中心とした崖等に掘り込んで造るお墓の

形態で、鎌倉時代中期から室町時代前半にかけて盛んに造られ、主に鎌倉とその周辺地に限定してみられる特徴的な墳墓です。



瀬戸21番地やぐら群 1号やぐら

金沢区No.9 遺跡（北谷公園内やぐら）（金沢区金利谷東） No8,11

金沢区No. 9 遺跡は6群28基のやぐらからなる遺跡とされていますが、現在その姿を確認できるのはわずかに8～9基程度です。やぐらは金沢区南部域に広く分布していますが、やぐらが集中している場所はありません。中世の白山道や六浦道が通っていたと比定される地域に多く見られます。



北谷公園内やぐら

金沢区No.52 遺跡（六浦二丁目所在やぐら）（金沢区六浦） No44,48

通称「岩沢家・長沢家やぐら群」と称される一群のつ、環状4号線に突出した尾根の先端部に位置するやぐら1基を調査しました。落盤により奥壁が崩れ、反対側に開口部を持つ別のやぐらと繋がっています。大きさは奥壁幅6.7m、高さ4.0m、奥行3.0mを測ります。



六浦二丁目所在やぐら

貝塚の調査

中区No.1 2 遺跡（平台貝塚）（中区本牧緑ヶ丘） No12,22

平台貝塚はJR根岸線山手駅の南東700mほどの県立横浜緑ヶ丘高校の敷地内に所在します。縄文時代前期後半の貝塚と焼土遺構が検出されました。カガミガイ、ハマグリ、オキシジミ、アサリなどが主体で、特に内湾砂底群集の貝類が優勢です。こうした貝類から、当時、平台貝塚は本牧入江の奥に位置し、貝塚の前面に広がる入江は遠浅で砂浜の発達した干潟になっていたと想定されます。また、貝塚前の干潟ではオキシジミ・マガキ・ハイガイなどの貝類、潮が引くと、その前に広がる砂質干潟でカガミガイ、ハマグリ、アサリ、シオフキなどの貝類を採取していたと推測されています。この他、サル、イヌ、タヌキ、イノシシ、ニホンジカ、ノウサギ、イルカ類などの骨も出土しています。貝層直下からは比較的多くの土器片も出土していますが、貝製品や骨角器などはみつかていません。また平台貝塚は斜面上方から下方へと形成されていたことが出土遺物の年代からわかっています。



貝塚検出状況

断面に貝層の堆積が斜めにみえる

土器出土状況（貝層直下）

土器出土状況

【左側の写真】
（上）貝層断面
（左下）調査風景
（右下）シカ下顎骨出土状況

市立金沢高校内貝塚（金沢区瀬戸） No2,9

京急金沢八景駅の北西側に、横浜市立大学と並んでいる市立金沢高校内の敷地内にあります。この辺り一帯は、中世では、平潟湾から奥に入り込んでいた内海で、内川入江（瀬戸の内海）と呼ばれていた場所でした。

貝塚というと、縄文時代の貝塚を思い浮かべる人が多いと思いますが、ここでは、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての貝層が検出されました。貝層の構成種の大半がマガキであり、土器などの人工遺物は出土しませんでした。前回調査では小型の甕や壺などの土器が出土し、またマガキ以外にも豊富な貝種が確認されており、弥生時代や古墳時代の海退後に、低地にも生活エリアがあったことがわかりました。



調査区西壁検出貝層



調査風景